

東京都交通局  
経営計画2022  
TOEI TRANSPORTATION

2024 年度進捗状況

**令和7年8月**

## 「東京都交通局経営計画 2022」 2024 年度進捗状況

交通局では、2022 年度から 2024 年度までの 3 か年を計画期間とする「東京都交通局経営計画 2022」を 2022 年 3 月に策定しました。

計画 3 年目である 2024 年度は、計画策定後の状況変化にも対応しながら、掲げた施策の達成に向けて着実に取組を進めました。

また、2024 年度を到達目標とする事業については、19 事業中 16 事業で目標を達成し、財政収支については、収支目標をいずれも達成しました。

2024 年度の主な進捗状況については、以下のとおりです。

### 2024 年度の主な進捗状況

#### ■安全・安心の確保

- ・浸水対策について、「東京都交通局浸水対策施設整備計画」に基づき対策を進め、駅出入口 7 か所、通風口 20 か所において対応を完了したほか、地下鉄の早期運行再開を図るための更なる耐震対策として、4 駅で地下部中柱の耐震補強工事を進めました（2024 年度までの 3 か年合計）。
- ・車内防犯カメラについて、都営地下鉄及び日暮里・舎人ライナーへの整備を完了しました。
- ・レールの変位データ等の一元的な管理のため、保線管理システムの改修を行うとともに、レール計測車を導入しました。
- ・都営地下鉄全線で、タブレット端末を活用した地下鉄構造物の点検を開始しました。

#### ■質の高いサービスの提供

- ・日暮里・舎人ライナーの車両 12 編成について定員を増やした車両に更新しました（2024 年度までの 3 か年合計）。
- ・三田線（当局管理駅）の車いす乗降口におけるホームのかさ上げ等の対策を完了し、新たに浅草線の工事に着手しました。
- ・大江戸線 1 編成の車両の更新に当たり、フリースペースの設置など、ユニバーサルデザインの考え方に基づいた「人にやさしい車両」を導入しました。
- ・大江戸線で、曲線走行時における車内騒音の低減に向けた操舵台車を 1 編成試験導入しました。
- ・バス停留所上屋について 15 棟を新設、30 棟を建替えたほか、ベンチを 53 基整備しました。
- ・バスの新車 72 両の導入に合わせて、車内中央の天井部に次停留所名を表示するモニターを設置しました。

#### ■東京の発展への貢献

- ・省エネルギー推進のため、バス停留所上屋 40 棟及び標識柱 100 基の照明を LED 化しました。
- ・小さなお子様連れのお客様にも安心して気兼ねなく都営地下鉄をご利用いただけるよう、子育て応援スペースの導入を拡大し、累計 71 編成に導入しました。
- ・燃料電池バスを新たに 5 両追加導入し、国内バス事業者最大となる累計 80 両を運用するとともに、更なる Z E V 化を進めるため、営業所内への水素ステーションを整備しました。

#### ■持続可能な経営基盤の確立

- ・局資産を有効活用して安定した収入を確保するため、大門庁舎（浜松町）周辺の再開発に参画したほか、地下鉄車内の広告用デジタルサイネージや駅構内への店舗設置など、広告事業や構内営業を進めました。
- ・全職場で旅費や給与、年末調整等の庶務事務をデジタル化しました。

# 1 安全・安心の確保

## ◆ 安全対策の強化

### (1) 安全管理の持続的向上

#### ■ 安全管理体制の強化

- 輸送の安全に係る基本的な姿勢を示した「安全方針」に基づき、2024年度の安全重点施策を策定し、半期ごとに取組状況を確認して継続的な改善を行うことで、PDCAサイクルを適切に機能させ、安全管理体制の更なる強化を図りました。



#### ■ 各種訓練の充実

- 都営地下鉄では、浸水被害を想定した自然災害対応訓練や、大きな地震による列車の脱線などを想定した異常時総合訓練、突発的な集中豪雨の発生を想定した災害対策本部運営訓練等を実施しました。
- 都営バスでは、大規模水害を想定した情報伝達訓練や災害時を想定したIP無線\*による一斉通信訓練、各事業所におけるテロ・異常時対策訓練等を実施しました。



【異常時総合訓練】



【自然災害対応訓練】

\*携帯電話回線を利用し、個別通話のほか、トランシーバーのように複数人で一斉通話もできる通信システム

#### ■ 安全に関する教育・指導の徹底

- 都営地下鉄では、浅草線に加え、新たに三田線及び大江戸線にも対応した地下鉄運転シミュレータを2023年度に導入しており、こうした設備を活用した研修により、職員の危機予知能力・異常時対応能力の向上を図りました。
- 都営バスでは、基本動作の徹底と安全意識の向上を図るため、少人数の乗務員によるグループ討議やドライブレコーダー画像を活用した安全研修を実施するとともに、運転訓練車\*<sup>1</sup>による安全教育や教習兼用車\*<sup>2</sup>による運転教育を実施しました。

\*1 運転手の視線、車内の揺れ、前方や側方の距離などを計測する様々なセンサーやカメラを搭載したバス車両

\*2 営業用の車両を研修用にも兼用できるよう補助ブレーキを追加したバス車両

#### ■ バス車両の安全装備の更なる改善

- 雨天時の左方の安全確認を行いやすくするため、新車の導入に合わせて、67両のバスの前扉に、くもり止めとしてヒーターガラスを導入しました。

## (2) ホーム事故「0」を目指した取組

### ■ 地下鉄駅のホームドア整備

- 2023 年度に都営地下鉄全駅で整備を完了しました。



【浅草線ホームドア】

#### 到達目標

2023 年度 浅草線整備完了(都営地下鉄全駅整備完了)

到達済

### ■ 地下鉄駅におけるホームと車両の段差・隙間の縮小（隙間への転落防止策）

- 三田線の車いす乗降口におけるホームのかさ上げ等の対策を完了し、新たに浅草線の工事に着手しました。

#### 到達目標

2023 年度 三田線三田駅への可動ステップ追加設置完了

到達済

2024 年度 三田線での対策完了 ※当局管理駅

到達済

## ◆ 災害対策等の強化

## (3) 浸水対策の強化

### ■ 浸水対策の強化

#### ① 施設・設備の浸水対策

- 2022 年度に策定した「東京都交通局浸水対策施設整備計画」に基づき対策を進め、駅出入口 1 か所、通風口 5 か所において対応を完了しました。
- 2024 年度までの 3 か年合計で、駅出入口 7 か所、通風口 20 か所において対応を完了しました。

#### 到達目標

2022 年度 浸水対策に係る整備計画の策定

到達済

2024 年度 対策工事実施(駅出入口 7 か所完了、通風口 20 か所完了)  
(3 か年合計)

到達済

#### ② お客様の安全確保への備え

- 浸水被害を想定した止水板等の設置や各部門間の情報伝達などの訓練を実施したほか、各駅で「避難確保・浸水防止計画」に基づき、お客様の避難誘導等の訓練を実施しました。

#### ③ 早期復旧に向けた対策

- 2022 年度に改定した「交通局危機管理対策計画（風水害編）」に基づき、風水害本部運営訓練等を実施したほか、三田線及び東京さくらトラム（都電荒川線）において、車両避難訓練を実施しました。

#### 到達目標

2022 年度 「交通局危機管理対策計画(風水害編)」改定

到達済

#### (4) 感染症対策の推進

##### ■ 新型コロナウイルス感染症対策の推進

- 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付け変更に伴い、2023 年度に 5 類移行後の局の感染症対策を決定しました。

##### ■ 交通局危機管理対策計画（新型インフルエンザ等編）の見直し

- 職員の欠員状況に応じた運行体制や応援体制の整備など、これまでの新型コロナウイルス感染症への対応で得た経験を踏まえ、「東京都交通局 BCP（新型インフルエンザ等編）」を 2022 年度に改定しました。

#### (5) 首都直下地震への備え

##### ■ 地下鉄の早期復旧を図るための耐震対策

- 施設等の安全性をより一層高めるとともに、早期の運行再開を図るための更なる耐震対策として、4 駅で地下部中柱の耐震補強工事を進めました。

到達目標

2024 年度 4 駅補強工事実施(3 か年合計)

到達済

#### (6) テロ対策等の強化

##### ■ テロ対策等の強化

###### ① 地下鉄車内での防犯対策

- 地下鉄車内での迷惑行為や痴漢等犯罪の未然防止、テロ対策などセキュリティ強化を図るため、全車両への防犯カメラの整備を完了しました。



【車内防犯カメラ】

到達目標

2024 年度 地下鉄車内防犯カメラ：全車両への導入完了

到達済

※計画策定後、既存車両についても設置することとしたため、目標を上方修正

###### ② 異常時対応の強化

- 駅や車両検修場等において、関係機関と連携してテロや NBC などを想定した訓練を実施し、職員の対応力強化を図りました。

###### ③ サイバーセキュリティ対策

- 多様化、高度化しているサイバー攻撃の脅威に対応するため、警視庁サイバーテロ対策協議会や東京都 CSIRT\*など関係機関と連携し、警戒情報の周知を行うとともに、標的型攻撃メール対策訓練等を実施しました。

\* CSIRT（Computer Security Incident Response Team）：サイバーセキュリティにおける事故等の対応を行うチーム

## ◆ 安定的な輸送を支える基盤整備

### (7) 施設等の適切な維持・更新

#### ■ 地下鉄構造物の長寿命化

- 浅草線及び三田線でのトンネル等の補修を進めるとともに、新宿線においては、2022 年度にシールドトンネル部で試験施工を実施したほか、2023 年度から開削トンネル部での止水対策及び天井部の剥落対策を開始しました。

到達目標

2022 年度 新宿線 試験施工実施

到達済

#### ■ 地上建築物の計画的な修繕・更新

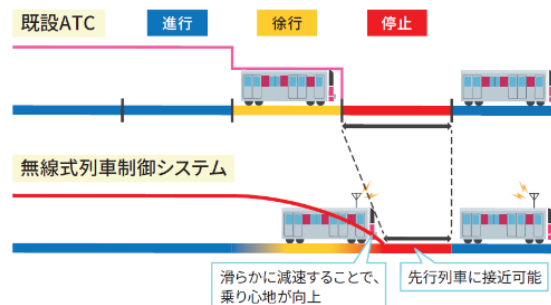
- 大島総合庁舎や江戸川自動車営業所臨海支所の大規模改修等の工事を進めました。

#### ■ 地下鉄駅出入口の老朽化対策

- 老朽化した三田線新板橋駅の出入口について、点検結果に基づき改修工事を進めました。

#### ■ 大江戸線への無線式列車制御システム（CBTC）\* の導入

- 大江戸線では、運転効率や乗り心地を一層向上できるように、信号保安装置の更新にあわせて無線式列車制御システム（CBTC）の導入を進めており、2027 年度の運用開始に向けて、車両や設備の改修を行いました。



【CBTC 導入イメージ】

到達目標

2027 年度 運用開始（予定）

\* 無線式列車制御システム（CBTC）：無線を利用して地上と車上との間で通信を行い、列車の運行と制御を行う信号保安技術

#### ■ 大江戸線の電力供給の更なる安定化

- 大江戸線における電力供給の更なる安定化を図るため、大江戸線浜松町変電所の新設に向けた変電設備工事を進めました。

到達目標

2025 年度 大江戸線浜松町変電所竣工（予定）

#### ■ 東京さくらトラム（都電荒川線）停留場上屋の更新

- 老朽化している停留場上屋の更新については、入札不調により工事に着手できていないことから、この計画で定めた目標によらず、新たな施工方法を検討の上、順次更新や改修を行うこととしました。

到達目標

2025 年度 4 停留場更新完了（予定）

## ■ 日暮里・舎人ライナー駅施設の維持修繕

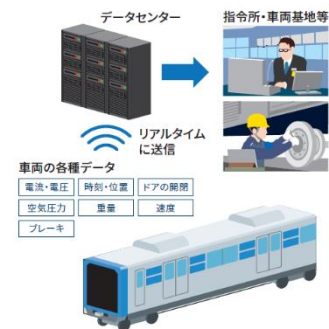
- 2024 年度は、日暮里駅等 9 駅でシャッターや自動ドアの修繕工事を完了したほか、日暮里駅等 4 駅でトイレ器具の更新を行いました。

## (8) 維持管理におけるデジタル活用の推進

### ■ 施設等の状態監視の高頻度化

#### ① 三田線への車両情報収集システムの導入

- 2022 年 10 月から三田線での車両情報収集システムの運用を開始しました。



【車両情報収集システム導入イメージ】

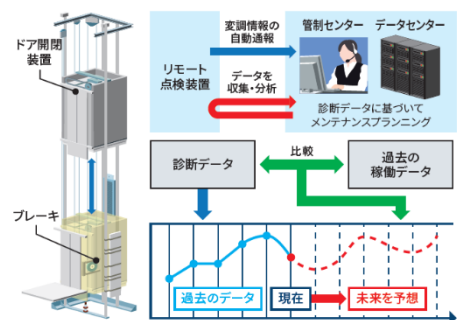
到達目標

2022 年度 三田線でのシステム運用開始

到達済

#### ② 新たな技術を活用したエレベーターの維持管理

- 新宿線船堀駅（2 基）、大江戸線落合南長崎駅（2 基）及び新江古田駅（2 基）に遠隔点検システムを追加導入しました。
- 遠隔点検のデータを活用し、機器の状態等を把握することができるようになり、維持・更新の最適化に向けた検討が可能となりました。



【エレベーターの遠隔点検システム導入イメージ】

### ■ 施設等の点検精度の向上

#### ① 新たな電車線検測手法の導入

- 大江戸線において、画像解析等を用いた電車線の新たな検測装置を製作し、全線での検測を開始しました。

#### ② AI を活用した転てつ機のメンテナンス

- 故障予兆の把握や点検・更新周期等の最適化に向け、2022 年度に構築したデータサーバを活用し、蓄積したデータを解析しました。

#### ③ 軌道管理のデジタル化

- レールの変位データや補修履歴等各種データの一元的な管理ができるよう、保線管理システムの改修作業を行うとともに、レール計測車を導入しました。

到達目標

2024 年度 レール計測車の導入・新システム運用開始

到達済

④ 地下鉄構造物の維持管理におけるタブレット端末等の導入

- 都営地下鉄全線で、タブレット端末を活用した地下鉄構造物の点検を開始しました。

到達目標

2024 年度 地下鉄全線でのタブレットによる点検開始

到達済

◆ 安定的な電力供給を支える基盤整備

(9) 安定的な電力供給を支える基盤整備

■ 発電所施設の大規模更新

- 多摩川第一発電所について、基本設計を進めるとともに、多摩川第三発電所について、実施設計を完了させるなど、大規模更新に向けて準備を進めました。

到達目標

2027 年度 多摩川第一発電所 大規模更新完了（予定）※

2028 年度 多摩川第三発電所 大規模更新完了（予定）

※「東京都交通局経営計画 2025」において、多摩川第一発電所については、屋外変電所の更新工事を先行して実施するとともに、2030 年代半ばの大規模更新完了を目指すこととしました。

## 2 質の高いサービスの提供

### ◆ 輸送需要への的確な対応

#### (10) 輸送需要への的確な対応

##### ■ ダイヤの適正化

- 都営地下鉄及び都営バスにおいて、お客様のご利用状況を踏まえ、ダイヤ改正を実施しました。
- 日暮里・舎人ライナーにおいて、時差 Biz キャンペーンの開始に合わせ、平日のオフピーク時間帯の日暮里方面行き列車を増発するダイヤ改正を実施しました。

##### ■ 地下鉄車両の長編成化

- 三田線について、車両更新に合わせて一部の編成を6両から8両に増強し、2022年5月から運行を開始しました。
- 新宿線について、2022年度に全編成の10両化を完了しました。



【三田線新型車両】

#### 到達目標

2022年度 三田線 8両編成運行開始

到達済

2022年度 新宿線 全編成 10両化

到達済

##### ■ 日暮里・舎人ライナー車両の更新

- 2022、2023年度に引き続き、日暮里・舎人ライナーの車両4編成について、座席を全てロングシート化して定員を増やした車両に更新しました。
- 2024年度までの3か年合計で、12編成の更新が完了しました。



【日暮里・舎人ライナー車両】

#### 到達目標

2024年度 12編成更新(3か年合計)

到達済

##### ■ オフピーク通勤等に向けた取組

###### ① ToKoPoの活用

- 都営交通の会員制ポイントサービス「ToKoPo」を活用し、「日暮里・舎人ライナー 冬の時差 Biz キャンペーン」を実施しました。

###### ② 混雑予測情報の提供

- 2021年3月から、混雑予測情報を都営交通アプリでお客様に提供しており、三田線の車両更新にあわせて導入した車両情報収集システムにより効率的に収集したデータを活用し、混雑予測情報に反映しました。

## ■ 地下鉄 12 号線（大江戸線）大泉学園町方面への延伸

- 庁内検討 PT において、旅客需要の創出、コストの低減、財源の確保・活用の面から、収支採算性等の課題解決の更なる検証を行うとともに、関係者と事業化について調整を進めました。

## ◆ 公共交通ネットワークの利便性向上

### (11) 公共交通ネットワークの利便性向上

#### ■ 東京の地下鉄サービスの一体化の推進

- 東京メトロと連携し、マナー啓発を促す内容を共同で両社局の公式 SNS にて発信するなど、地下鉄サービスの一体化に取り組みました。

#### ■ 東急新横浜線との直通運転に向けた準備

- 三田線において、2023 年 3 月から東急新横浜線との直通運転を開始しました。

到達目標

2022 年度 東急新横浜線との直通運転開始

到達済

#### ■ 魅力的な企画乗車券の販売

- Tokyo Subway Ticket について、沿線施設や他社と連携したセット券を発売するなど、販路を拡大しました。
- タイアップイベント（うんこドリル特別コラボや東京都生活文化スポーツ局（当時）主催舎人公園イベント等）などを活用し都営まるごときっぷを PR しました。
- 東京さくらトラム（都電荒川線）でスタートアップ企業の RYDE 社と連携し、都電一日券のデジタル乗車券を発売しました。
- 都営地下鉄ワンデーパス\*について、お子様連れで外出しやすい環境づくりに向け、小児券を 100 円で発売しました。

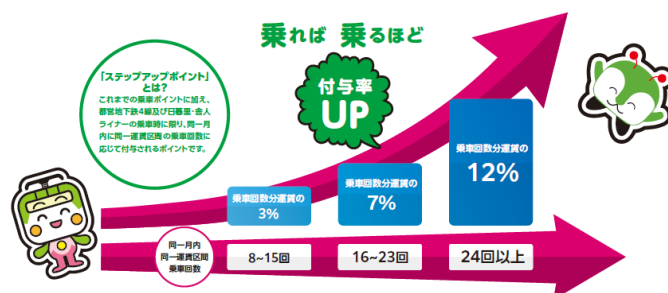
\*都営地下鉄が一日乗り放題となる企画乗車券（夏、冬及び春に期間限定で発売）



【うんこドリル特別コラボ】

#### ■ ToKoPo の魅力向上

- 都営交通の利用者の拡大を図るとともに、様々な利用機会を創出していくため、2023 年 4 月に、乗れば乗るほどポイント付与率がアップする新たなポイントサービス「ToKoPo ステップアップボーナス」を開始したほか、新規入会者に対しポイントをプレゼントするキャンペーンなどを実施しました。



【ポイント付与イメージ】

到達目標

2030 年度 会員数 20 万人(予定)

## ■ MaaS の推進

- 駅構内ナビサービスに代わり Google マップの「インドア ライブビュー」の導入駅を拡大しました。
- 東京さくらトラム（都電荒川線）でスタートアップ企業の RYDE 社と連携し、都電一日券のデジタル乗車券を発売しました。【再掲】

## ◆ 便利で快適な移動空間の創出

### (12) 駅空間の質的向上

#### ■ バリアフリールート の充実

- 駅の構造や周辺状況等を踏まえ、再開発などの機会も捉えながら、2 駅のエレベーターを整備しました。
- なお、入札不調等により遅れが生じた 4 駅は、当初計画を見直し整備を進めています。

到達目標

2024 年度 エレベーター6 駅整備(3 か年合計)

未達成

#### ■ トイレの改修

- 機能性と清潔感を備えたトイレへのグレードアップは、入札不調により 6 か所の改修に止まりました。一方、温水洗浄便座への改修は 9 か所で完了しました。

到達目標

2024 年度 9 か所改修(3 か年合計)

未達成

#### ■ 地下鉄駅におけるホームと車両の段差・隙間の縮小(車いす利用者の単独乗降に向けた環境整備)

- 三田線の車いす乗降口におけるホームのかさ上げ等の対策を完了し、新たに浅草線の工事に着手しました。【再掲】

到達目標

2024 年度 三田線での対策完了 ※当局管理駅

到達済

### (13) 地下鉄車両の快適性向上

#### ■ 人にやさしい地下鉄車両の導入

- 大江戸線 1 編成の車両の更新に当たり、フリースペースの設置など、ユニバーサルデザインの考え方に基づいた「人にやさしい車両」を導入しました。
- 2024 年度までの 3 か年合計で、三田線 4 編成、新宿線 4 編成、大江戸線 9 編成への導入が完了しました。



【フリースペース】

到達目標

2024 年度 三田線 4 編成、新宿線 4 編成、大江戸線 9 編成  
(3 か年合計)

到達済

※計画策定後、大江戸線 1 編成を追加整備することとしたため、目標を上方修正

## ■ 大江戸線の車内騒音低減

- 曲線走行時における車内騒音の低減に向けた操舵台車を1編成試験導入しました。

到達目標

2024 年度 操舵台車の試験導入

到達済

## (14) バスの快適性・利便性向上

### ■ 停留所上屋・ベンチの整備

- バス停留所上屋について15棟を新設、30棟を建替えたほか、ベンチを53基整備しました。
- 2024年度までの3か年合計で、上屋120棟、ベンチ146基の整備が完了しました。

到達目標

2024 年度 上屋60棟整備、ベンチ60基整備（3か年合計）

到達済

### ■ バス車内における案内サービスの充実

- 新車72両の導入に合わせて、車内中央の天井部に次停留所名を表示するモニターを設置しました。
- 2024年度までの3か年合計で、253基の設置が完了しました。



【バス車内中央の天井に設置したモニター】

到達目標

2024 年度 240基設置(3か年合計)

到達済

## ◆ お客様のニーズに応えたサービスの展開

## (15) 案内サインや情報提供の充実

### ■ 地下鉄駅の案内サインの改修

- 三田線志村坂上駅など8駅の案内サインの改修工事を進めました。



【案内サイン（左：改修前、右：改修後）】

到達目標

2026 年度 全駅完了(予定) ※当局管理駅

### ■ デジタル技術を活用した案内・情報提供

#### ① ロボットコンシェルジュ等の活用

大江戸線新宿西口駅と浅草線新橋駅において、ロボットコンシェルジュの運用状況について検証を行いました。

## ② 業務用掲示板等のデジタル化

- 外国人旅行者や聴覚障害のあるお客様が駅窓口でよりスムーズに案内を受けられるよう、音声翻訳 13 言語に対応した透明ディスプレイ「VoiceBiz® UCDisplay®」を 7 駅に導入しました。

## ③ スマートフォンを活用した移動支援

- 駅構内ナビサービスに代わり Google マップの「インドア ライブビュー」の導入駅を拡大しました。  
【再掲】

# (16) 新たな駅サービスの展開

## ■ 定期券 WEB 予約サービスの導入

- 2023 年度から定期券 WEB 予約サービスを開始し、これまで定期券発売所でのみ購入可能だった都営交通の新規通学定期券を、都営地下鉄及び日暮里・舎人ライナーの各駅\*で購入できるようにしました。

到達目標

2023 年度 定期券 WEB 予約サービスの運用開始

到達済

\*他社管理駅等の一部駅を除く。

## ■ デジタル技術を活用した駅サービスの推進

### ① 地下駅での 5G 環境の実装に向けた取組

- 2022 年度に大江戸線都庁前駅において、民間事業者と協力し、「インフラシェアリング方式」による 5G 環境を全国で初めて地下鉄駅構内に整備するとともに、AI カメラの映像解析による駅係員の接客サービスへの活用等について実証実験を実施しました。
- 大江戸線都庁前駅において、OpenRoaming を活用し、利用状況の把握やプッシュ通知の有効性検証などに向けて更なる実証実験を実施しました。

到達目標

2022 年度 都庁前駅での実証実験

到達済

# (17) お客様ニーズに即した駅構内サービスの展開

## ■ お客様ニーズに即した駅構内サービスの展開

- 傘シェアリングサービス「アイカサ」のレンタルスポット（傘立て）を新たに設置・拡大しました。これにより、都営新宿線では全 21 駅で「アイカサ」を利用できるようになり、首都圏初の地下鉄路線での全駅展開となりました。
- 2023 年度に大江戸線上野御徒町駅に設置した「こどもスマイルスポット」について、2024 年 9 月に新宿西口駅及び門前仲町駅に新たに設置し、育児用品を扱う自動販売機の設置やベビーカーレンタルサービスの提供などを通じて、赤ちゃんや小さなお子様とのお出かけをサポートする取組を進めました。
- 宅配受け取りロッカー（PUDO ステーション）を設置・拡大しました。



【こどもスマイルスポット（新宿西口駅）】

## (18) 多角的な広報の展開

### ■ 多角的な広報の展開

- 広報誌や SNS など、様々なツールを活用し、都営交通の取組やイベント、沿線情報等の情報を発信しました。

また、外国人向けの東京都公式 Facebook (Tokyo Gov)・公式 X (Tokyo Gov) など活用し、クレジットカード等のタッチ決済を活用した乗車サービス等について、幅広くお知らせしました。

---

## ◆ サービス品質の持続的向上

---

## (19) お客様の視点に立ったサービスの提供

### ■ サービス向上策の検討、実施

- 職員の接客や施設の現状など、各サービスのレベルを調査・評価する「都営交通モニター制度」を活用し、幅広い世代からいただいたご意見を参考に、サービス向上に努めました。
- サービス推進強化月間(10月)を設定し、重点項目を定めて各職場においてサービス推進活動に取り組みました。

また、「交通局サービス推進発表会」や研修を実施し、組織全体のサービスレベルの向上を図りました。

### ■ 多様なニーズを踏まえた接遇の実施

- 職員の対応力向上を図るため、英会話研修、障害者対応研修、認知症サポーター養成研修等を実施するとともに、サービス介助士の資格取得を進めました。

## (20) 公共交通機関を気持ち良くご利用いただくための取組

### ■ 誰もが快適にご利用いただくための取組

- 歩きスマホ等をテーマにしたマナーポスターやマナー動画を作成し、駅や車内モニター、ホームページでPRを行うとともに、都内の小学4年生を対象に「楽しく乗ろう！交通マナーブック」を作成・配布しました。



【マナーポスター】



【交通マナーブック】

### 3 東京の発展への貢献

#### ◆ まちづくりとの連携

##### (21) 浅草線のリニューアル・プロジェクト

###### ■ 駅構内の改装

- 東銀座駅について改装工事を進めました。  
なお、供用開始予定を当初計画から見直し、2025 年度としました。
- 五反田駅及び東日本橋駅について、改装に向けた設計を完了しました。

到達目標

2024 年度 東銀座駅改装完了

未達成

###### ■ 駅施設の大規模改良

###### ① 浅草駅出入口の新設・更新

- バリアフリー化された新たな出入口の整備に向けた協議を進めるとともに、既存出入口の更新に向けて、代替となる出入口整備の設計を完了し、工事に着手しました。

###### ② 高輪台駅のエレベーター新設

- ホームとコンコースとの間のエレベーター整備について、検討を進めました。

###### ③ 日本橋駅の新改札・地下連絡通路整備

- 駅周辺の再開発事業者と協力しながら、相対式ホームを繋ぐ地下連絡通路や新たな改札口、エレベーター等の整備に関する工事を進めました。

##### (22) まちづくりと一体となった泉岳寺駅の大規模改良

###### ■ 泉岳寺駅の大規模改良

- ホームの拡張やコンコースの拡張、エレベーターの増設など大規模改良に向け、土留め工事及び掘削工事に着手しました。  
なお、埋蔵文化財の出土に伴う発掘調査に時間を要しており、拡張ホームの供用開始予定時期を見直しています。

到達目標

2027 年度 拡張ホーム供用開始(予定)

見直し中

##### (23) 民間事業者等と連携した新宿駅西南口地区の再編

###### ■ 民間事業者等と連携した新宿駅西南口地区の再編

- ミヤコ新宿ビルを含む「新宿駅西南口地区開発計画」の実現に協力するため、事業主体である民間事業者との間で協議を進めました。

## (24) 5G等を活用したまちづくりへの貢献

### ■ アセット開放を通じた5G整備への協力

- 5Gアンテナ基地局の設置促進に向け、保有するアセット（資産）の公開や関係者との調整を行いました。2024年4月に巣鴨自動車営業所への5Gアンテナ基地局の設置工事を完了させ、サービスを開始しました。

### ■ バスの自動運転技術等の検証

- 自動運転に関する勉強会への参加や事業者へのヒアリングを行い、実証実験実施に向けて検討を行いました。

## ◆ 沿線地域との連携

## (25) 多様な主体との連携による沿線地域活性化

### ■ 多様な主体との連携による沿線地域活性化

- 「東京さくらトラム×沿線飲食店コラボレーション企画」や沿線の公園等とのコラボイベントを実施するなど、沿線地域の活性化に向けた取組を推進しました。



【沿線飲食店とのコラボイベント】



【沿線の公園とのコラボ企画】



【映画とのコラボ企画】

### ■ 都営交通オリジナルショップの開設

- 当初計画から遅れたものの、2024年5月に沿線セレクトショップ「とえいろ」を都営新宿線市ヶ谷駅構内に開設しました。
- 沿線企業とのコラボ商品を開発・販売したほか、「とえいろ」の認知向上のため積極的な広報を展開しました。



【沿線セレクトショップ「とえいろ」】

到達目標

2023年度 都営交通オリジナルショップ開設

2024年度到達

## (26) 発電所立地地域への貢献

### ■ 発電所立地地域への貢献

- 関係局と連携し、白丸発電所・白丸調整池ダムの近傍に、電気自動車用急速充電器を設置しました（2025 年 4 月から運用開始）。
- 地域の観光振興に貢献するため、地元自治体と連携し、引き続き白丸調整池ダムの巡視路を開放しました。
- また、地元花火大会への協賛を行うほか、都内イベント等において、ノベルティグッズを配布し、電気事業の PR を行いました。

## ◆ 持続可能な社会の実現への貢献

## (27) 環境に配慮したバス車両の導入

### ■ バスの ZEV 化の推進

- 燃料電池バスを新たに 5 両追加導入し、2024 年度末時点で国内バス事業者最大となる累計 80 両を運用しています。
- 更なる ZEV 化を進めるため、営業所内への水素ステーション整備を完了しました（2025 年 4 月から運用開始）。
- 大都市における EV バス導入モデルの構築に向け、東京電力ホールディングス株式会社と連携し、2025 年 6 月の EV バス運行開始に向けて、車両の調達や充電設備設置を進めました。



【燃料電池バス】

到達目標

2024 年度 燃料電池バス 累計 80 両導入

到達済

また、グリーン電力を活用した充電の実証に向けて庁舎壁面への薄型太陽光発電設備の整備に取り組みました。

### ■ 低公害バス車両の導入

- 窒素酸化物（NOx）、粒子状物質（PM）等の削減に努め、更新したディーゼル車両 67 両を全て最新の排出ガス規制に適合した車両としました。

## (28) 省エネの推進と再生可能エネルギーの導入拡大

### ■ LED 照明の導入拡大

#### ① バス停留所への LED 照明の設置拡大

- 更新等に合わせ、バス停留所上屋 40 棟及び標識柱 100 基の照明を LED 化しました。
- 2024 年度までの 3 か年合計で、上屋 115 棟、標識柱 300 基の照明を LED 化しました。

到達目標

2024 年度

上屋：60 棟(3 か年合計)  
標識柱：300 基(3 か年合計)

到達済

## ② 地下鉄駅等の LED 化

- 大江戸線新御徒町駅など、9 駅の構内照明や地下鉄トンネルの LED 化を進めました。

### 到達目標

**2026 年度** 出入口案内サイン整備完了(予定) ※当局管理駅

**2027 年度** 駅照明 LED 化完了(予定)

## ③ 庁舎・営業所等の LED 化

- 大島総合庁舎及び江戸川自動車営業所臨海支所について、照明の LED 化改修工事を完了しました。

## ■ 省エネ運転の促進

- バスの運転状況や燃料消費量を記録するエコドライブ用機器の活用により、省エネ運転の促進を図り、燃料消費の抑制に努めました。

## ■ 東京さくらトラム（都電荒川線）への再生可能エネルギーの導入

- 2024 年 4 月から、東京さくらトラム（都電荒川線）の運行電力を 100% 当局の水力発電由来の電力としました。

## ■ 庁舎への太陽光発電設備の設置

- 大島総合庁舎及び江戸川自動車営業所臨海支所の屋上へ太陽光発電設備を設置しました。

## ■ 「東京産水力発電の環境価値」の活用

- 公募型プロポーザルにより選定した事業者を通じて、都内の需要家に水力発電による CO2 フリー電気を販売するとともに、事業者と協業して東京さくらトラム（都電荒川線）への PR 広告掲載、ホームページにおける東京都水力発電所の紹介等により、再生可能エネルギーの普及・拡大を図りました。  
※交通局においても、自ら発電した水力発電による電気を都営バス全営業所及び東京さくらトラム（都電荒川線）の運行電力で使用しています。
- 関係局と連携し、白丸発電所・白丸調整池ダムの近傍に、電気自動車用急速充電器を設置しました（2025 年 4 月から運用開始）。【再掲】

## (29) 公共交通の利用促進等による環境負荷の低減

### ■ 環境 PR による都営交通の利用促進

- 都営交通の環境負荷低減に資する取組や公共交通の環境優位性について、ポスターや車内モニターを活用し、積極的に PR しました。

### ■ ToKoPo を活用した取組

- 6 月の環境月間に合わせ、東京メトロと共同でエコボーナスキャンペーンを実施したほか、ロハスフェスタ東京 2024 に来場した ToKoPo 会員にポイントを付与するキャンペーンを実施しました。

### ■ 自転車シェアリングとの連携

2024 年度までに都営地下鉄累計 31 駅で、近隣にあるサイクルポートの設置場所を案内するピクトグラムを新設しました。



【サイクルポートを案内するピクトグラム】

## ■ 東京さくらトラム（都電荒川線）の軌道緑化

- これまでの実証実験などを通じて得られた費用面等の課題について引き続き検討するとともに、設置している緑化器材の維持管理を行いました。

## ◆ 福祉施策への貢献

### (30) 福祉施策への貢献

#### ■ 福祉インフラ整備への協力

- 2024年4月の中野坂上の局有地における保育所開設など、貸付を通じて保育施設整備に協力しました。

また、保育所整備などに活用可能な局有地の洗い出しを行い、「都用地活用推進本部」を通じて、区市等に対して候補地の情報を提供しました。

#### ■ 子育て応援スペースの導入拡大

- 小さなお子様連れのお客様にも安心して気兼ねなく都営地下鉄をご利用いただけるよう、子育て応援スペースの導入を拡大し、累計71編成に導入しました。
- また、馬込車両検修場において、浅草線の子育て応援スペースを活用した絵本の読み聞かせイベントを実施しました。



【絵本の読み聞かせイベント】

到達目標

2024年度 累計71編成導入

到達済

#### ■ ヘルプマークの普及への協力

- 都営地下鉄各駅や都営バス営業所などでヘルプマークを配布するとともに、車両の優先席上部の窓及び優先席付近のホームドアへのステッカーの掲出や駅等でのポスター掲出を行いました。

## ◆ 都政情報などの発信等への協力

### (31) 都政情報などの発信等への協力

#### ■ 局媒体を活用した都政情報等の発信

- 都営地下鉄や都営バスの車内液晶モニター等を活用し、都政に関する情報や他の自治体の観光案内などの発信に協力しました。



【地下鉄車内の液晶モニター】

#### ■ オープンデータの推進

- 公共交通オープンデータセンターや、東京都オープンデータカタログサイトを通じて、時刻表や運行情報などのデータを提供しました。

## 4 持続可能な経営基盤の確立

### ◆ 関連事業の強化

#### (32) 関連事業の強化

##### ■ 資産の利活用

- 大門庁舎を事業区域に含む浜松町二丁目地区市街地再開発事業について、2024 年 11 月に施設建築物等の整備工事が竣工し、当初の到達目標から前倒しで利活用を開始しました。
- 都営バス新宿支所を事業区域に含む西新宿三丁目西地区市街地再開発事業について、再開発組合を通じ、施設計画の検討を進めました。

##### 到達目標

2025 年度 大門庁舎（浜松町） 利活用開始(予定)

2029 年度以降 都営バス新宿支所 利活用開始(予定)

到達済

##### ■ 広告事業の積極的展開

- 車両更新に合わせ広告用デジタルサイネージを設置し、車内デジタル広告の販売を拡大しました。
- 応援広告の販売を促進したほか、フリースポット枠や都政策 P R 枠を設定し 2025 年度からの販売に向けた検討を進め、新たな広告商品の開発を行いました。
- 広告板が設置されていないバス停留所上屋 10 棟に広告板を設置しました。



【応援広告】

##### ■ お客様ニーズに即した構内店舗等の展開

- 積極的な店舗誘致活動を行い、浅草線浅草橋駅、三田線大手町駅及び神保町駅で新たな店舗がオープンしました。



【大手町駅の新店舗】



【神保町駅の新店舗】

##### ■ 通信事業の推進

- （公社）移動通信基盤整備協会において地下鉄駅空間への 5 G 環境の整備に向けた工事を進め、45 駅でサービスを開始しました。

---

## ◆ 事業運営を支える人材の確保と育成

---

### (33) 事業運営を支える人材の確保と育成

#### ■ 運輸系職員の人材確保

- 交通局と関連団体とで合同採用説明会を開催したほか、全職種において WEB セミナーを活用した PR を実施するとともに、WEB 申込や WEB 面接等 ICT を活用した採用選考を実施しました。
- 2024 年度下半期に、交通技能（自動車整備、電気、電車整備）で二次募集を実施しました。
- 希望やキャリアにマッチした職種の募集開始やイベントをご案内する「キャリア登録」の PR 動画や、バス運転手志望者のご家族をターゲットにした動画の公開、合同企業説明会への出展など、応募者の裾野の拡大に向けて採用 PR の充実を図りました。

#### ■ 人材育成機能の強化

- 職員一人ひとりの能力開発とキャリアプランの形成を図るため作成した「交通局人材育成ビジョン」を職員に周知するとともに、各現場の実務の中核を担う職員の確保・育成等について検討を進めました。

#### ■ 職務に関する知識・技術の継承

- 職員の研修について、オンラインツールも活用しながら計画的に実施するとともに、ベテラン職員が培ってきた技術やノウハウの継承を進めるため、各職場で研修や OJT を実施しました。
- 保守職員を対象に、外部の技術専門機関などを活用した専門研修を実施するとともに、電気や保線等の各職場に設置している模擬実習設備を活用した実践的な研修・訓練を行いました。
- グループ一体となって人材の確保・育成を進めるため、関連団体から局への研修生の受入れに加え、局から団体への研修派遣を実施しました。

---

## ◆ 全ての職員が活躍できる職場環境づくり

---

### (34) ダイバーシティの推進

#### ■ ダイバーシティの推進

- 女性職員のつながりや人脈を構築するとともに、先輩職員との意見交換を通じて自身のキャリアプランを考える機会とするため、運輸系職員を対象に「女性活躍の推進」をテーマに座談会を開催しました。
- 施設の大規模改修などに合わせ、女性用の仮泊室等の整備を進めました。

### (35) コンプライアンスの推進

#### ■ コンプライアンスの推進

- 職員一人ひとりが法令などを遵守し、高い規範意識を持ちながら業務を常に見つめ直し、信頼され支持される都営交通を実現できるよう、コンプライアンス研修を実施したほか、コンプライアンス推進運動の強化や飲酒事故防止運動、コンプライアンス通信の発行等の各種取組を実施しました。

## (36) 職員の健康管理の推進

### ■ 職員の健康管理の推進

- 各職場で健康なんでも相談やストレスチェック、新任・転入管理監督者向けのメンタルヘルス研修等を実施しました。
- 対象の乗務員に SAS（睡眠時無呼吸症候群）検診及び脳 MRI 健診を実施し、必要に応じて適切な治療につなげました。

## ◆ 事業運営を支える執行体制の構築

## (37) 効率的・効果的な事業運営の推進

### ■ デジタル技術を活用した業務環境の整備

- WEB 会議環境の拡充など、デジタル技術を活用した新たな業務環境の整備に向けて、都の関連部署と連携しながら、システム構成に係る設計等を行いました。
- 一部の職場において、未来型オフィスへの移行を行ったほか、残りの部署については、未来型オフィスへの移行に向けてレイアウト検討等の準備を進めました。

到達目標

2025 年度 新たなデジタル環境の運用開始(予定)

### ■ 内部管理事務の効率化

- 庶務事務システムを導入し、旅費や給与等の業務のデジタル化を進めました。
- 全職場で WEB 申告による年末調整を実施するなど、中間処理レスによる事務の効率化を推進しました。

到達目標

2024 年度 全職場での運用開始

到達済

### ■ 地下鉄の定期券発売業務の見直し

- 2023 年度から定期券 WEB 予約サービスを開始し、これまで定期券発売所でのみ購入可能だった都営交通の新規通学定期券を、都営地下鉄及び日暮里・舎人ライナーの各駅\*で購入できるようにしました。【再掲】

合わせて、利用実績を踏まえ、2024 年 7 月に新宿線大島駅、大江戸線上野御徒町駅の定期券発売所を廃止しました。

\*他社管理駅等の一部駅を除く。

### ■ デジタル技術を活用したバスの乗降調査方法の検討

- スタートアップ企業と連携し、AI カメラを活用した乗降データ等取得の実証実験を行いました。

#### ■ 維持管理におけるデジタル活用の推進

- エレベーターの遠隔点検システムを、新宿線船堀駅（２基）、大江戸線落合南長崎駅（２基）及び新江古田駅（２基）に遠隔点検システムを追加導入するとともに、都営地下鉄全線でタブレット端末を活用した地下鉄構造物の点検を開始するなど、デジタル技術の活用により施設等の点検精度の向上を図りました。【再掲】

#### ■ 不断の業務改善への取組

- 自ら業務を改善する組織風土を醸成するため、職員の提案による優れた取組を表彰したほか、技術発表会を開催しました。
- DX 関連の優れた提案を表彰しました。

### (38) 組織の見直しによる執行体制の再構築

#### ■ 組織の見直しによる執行体制の再構築

- 交通局を取り巻く厳しい事業環境に対応するため、新たな技術の活用や多様な主体との連携の推進等に向けた執行体制の構築を図りました。

### (39) 体系的なリスクマネジメントの推進

#### ■ 体系的なリスクマネジメントの推進

- 各部署における様々なリスクを網羅的に洗い出した上で、取組計画を策定し、「リスクマネジメント委員会」により定期的に取組状況の確認を行うことで、体系的に進捗管理や改善を実施しました。

### (40) グループ経営の推進

#### ■ グループ経営の推進

- グループ一体となって人材の確保・育成を進めるため、関連団体から局への研修生の受入れに加え、局から団体への研修派遣を実施しました。【再掲】
- 経営課題等について定期的に意見交換を実施し、政策連携団体との連携強化を図りました。